

震災から1カ月半…いまだ傷癒えぬ被災地

みんなが力を合わせ 被災地を応援しよう

東日本大震災への支援状況

3月11日に発生した『東日本大震災』から、はや1カ月半が経過しました。その間、震災による死者は日増しに増え、依然、行方不明の方もいます。また、津波で家屋や財産を失った方、引き続き避難所生活を余儀なくされている方もいます。震災は、去ればそれで終わりではありません。今もなお、被災地で苦しんでいる方がたくさんいます。今号では、これまでの被災地支援の取り組みを紹介するとともに、当日、震度6弱の地震に見舞われた姉妹都市・宮城県白石市の状況などについてお知らせします。

写真：天井が落下した白石市の議場

姉妹都市・白石市の被害額は約57億4千万円

登別市の姉妹都市、宮城県白石市は、東日本大震災で震度6弱を記録しました。

この地震により、電気やガス、水道、電話などのライフラインが使用できなくなりましたが、これらは3月末までに復旧しています。

しかし、1千870戸の民家が全・半壊や屋根瓦の崩落などの被害を受けたほか、公共施設では、4月12日現在、約57億4千万円の被害を受けるなど、震災は、白石市に深い傷を刻み込みました。

白石市の被害状況

【民家被害】

被害区分		件数
家屋被害	全壊	11件
	半壊	6件
屋根瓦被害	崩落	1,041件
	一部損壊	812件
計		1,870件

【公共施設被害】

施設区分	被害額
保育など施設関係	328万2,000円
市役所関係	1,515万円
商工観光施設関係	735万円
市道・河川・水路関係	17億2,400万円
農業施設関係	4,665万円
公園関係	8,350万円
サッカ一公園	7,000万円
沖の沢群山線関係	2億8,000万円
上水道関係	2億3,100万円
下水道関係	28億7,600万円
計	57億4,105万4,000円

のぼりべつが被災地にできること

これまでの被災地支援の取り組み

善意の物資が被災地へ届けられました

3月22日(火)から、市民の皆さんにご協力を呼び掛けていた被災地への物資を、3月31日に、被災地へ届けました。内訳は、バスタオル411枚、タオル2千655枚、ボックスティッシュ742個、トイレトペーパー1千330個、乳児用紙おむつ3千785個で、陸路により岩手県などへ搬送しました。

多くの義援金が寄せられています

日本赤十字社や赤い羽根共同募金会、登別・白石姉妹都市交流推進協議会には、市民の皆さんから多くの義援金が寄せられています。中間集計額などについては6月号でお知らせします。

職員が現地で被災地の支援に当たっています

市は、日本水道協会や総務

省消防庁などの要請を受け職員を被災地へ派遣し、給水業務や救出活動などに従事したほか、胆振の市や町、胆振総合振興局の職員による、被災地の現地支援を行いました。今後、被災者の健康相談などに対応するため、保健師2人の派遣を予定しています

期間	支援地	人数	内容
3月19日～24日	石巻地区	5人	救助隊
3月26日～31日	仙台市	1人	給水班
4月1日～7日	石巻地区	5人	救急隊
4月1日～9日	山元町	1人	物資管理
4月9日～17日	仙台市	1人	戸籍事務
4月13日～19日	石巻地区	5人	救急隊
4月17日～23日	仙台市	1人	戸籍事務
4月19日～27日	山元町	1人	避難所対応
4月24日～29日	仙台市	1人	戸籍事務

▲職員の被災地派遣の状況

被災者の避難状況

4月14日現在、登別市には、仙台市や茨城県などから、15人の方が、市内の身寄りの方や公営住宅などに避難しています。